

第11回 平成28年（2016年）熊本地震に関する
非常災害対策本部会議

平成28年4月22日 16:45
3号館4階幹部会議室

議事次第

1. 石井大臣からの報告

石井大臣

平成28年熊本地震についての国土交通省の対応状況

国土交通省の主な対応状況

(1) 住環境

■二次的避難場所の確保

- ・全旅連等に九州全域の旅館・ホテルへの被災者の受入れを要請。全旅連は、他県の宿泊施設についても、熊本県からの要請があり次第、受入用意あり。
- ・保健師が各避難所で聴取した利用希望をもとに、熊本県及び全旅連熊本県支部において、高齢者、障害者、乳幼児連れの方、体調の悪い方を中心に、昨日より順次受入を開始した(3名)。本日も受入を実施予定。
- ・八代港での民間の大型フェリーによる入浴、食事、宿泊の提供開始に向け、防衛省、熊本県などと連携を図りつつ、準備中。

■応急的な住まいの確保等

- ・熊本県では、判定士を増員して被災建築物の応急危険度判定を実施中。
 ※本日150名体制、明日以降600名体制に増員。益城町では今週末を目途に終了。
 ※宇土市、西原村、南阿蘇村、御船町、菊陽町において本日(4/22)より判定開始。
 ・4/15約30名 → 4/18約75名 → 4/20約150名 → 4/23(予定)約600名
- ・公営住宅等の受付開始等の状況 合計8,350戸
 - (1)熊本県内では、熊本県及び熊本市をはじめ、計431戸を確保。

・熊本県：70戸程度	4/21 受付開始	入居開始予定日はいずれも5/6
・熊本市：250戸程度	4/23 受付開始	
 - (2)熊本県を含む九州各県では、2,799戸(うちUR住宅367戸)を確保。
各県等において受付開始。
 - (3)九州以外の都道府県で被災者がすぐにでも入居可能な状態の公営住宅等を計5,551戸確保(4/21集計分)。一部の地方公共団体で受付開始。
- ・応急仮設住宅の建設について、熊本県と熊本県優良住宅協会及びプレハブ建築協会が県内で協議を開始。

- ・応急仮設住宅の建設業務支援のため、地方公共団体等職員の派遣を要請。
- ・第1陣としてUR、岩手県、宮城県、福島県の職員を熊本県庁へ派遣予定(4/25)。

■飲料水等の確保

- ・海洋環境整備船等8隻および巡視船7隻により、三角(みすみ)港、熊本港、八代港等にて給水(飲料水)(4/22)
- ・(独)水資源機構が熊本県山都町(やまとちょう)に派遣した可搬式浄水装置(約16,000人分/日の飲料水供給可能)を本格稼働(4/22)
- ・巡視船7隻により食料支援、入浴・トイレ提供、携帯電話の充電等を実施。また、巡視船から、生活物資を熊本市へ搬送(4/22)
- ・下水処理場は機能を確保。下水管は全国各都市の応援を得て調査点検中
仮設トイレのし尿は熊本県及び熊本市の一部処理場で受入中

(2) 物流

- 幹線物流：大手物流事業者の参画の下に、プッシュ型の支援物資を搬入する体制(トラックのほか、鉄道、内航海運)を確保。
- フィーダー物流：食料については、自衛隊やトラック事業者が日本通運(鳥栖)から南阿蘇村等の市町村へ輸送。飲料水その他の品目については、自衛隊や物流事業者がヤマト運輸(福岡久山)等から、被災地の市町村まで輸送
- 人的支援：物流事業者の専門家を非常災害対策本部、熊本県庁等に派遣

<参考：営業用トラック輸送の手配実績(22日6時現在)>

幹線物流(プッシュ型)	: 64件
幹線物流(プル型 被災自治体から国に依頼があったもの)	: 17件
その他(熊本県・熊本市から同県トラック協会に依頼があったもの)	: 77件

(3) 交通

■道路

○新たな開通について

- ・グリーンロード南阿蘇 本日10時一般開放。熊本市内から南阿蘇方面への東西軸が回復し、大型車での物資輸送が可能

○物資輸送・渋滞対策等

- ・九州道植木(うえき)IC～益城(ましき)熊本空港IC間(19km)について、19日より物資輸送車両等が通行可能。さらに明日から高速バスも通行可。
- ・広域的な対策調整の場(整備局、県、市、警察等)を設置し、以下の対策を実施中

※利用ICの誘導による熊本市内への流入分散
 ※国道3号から他の道路への迂回誘導
 ※渋滞箇所における仮設トイレ等の設置

○復旧の取組について(3路線75km通行止め)

【高速道路】

九州自動車道 植木(うえき)IC～八代(やつしろ)IC

(56km、うち19kmは物資輸送車両通行可)

- ・八代(やつしろ)IC～嘉島(かしま)JCT(33km)
 来週前半に一般開放予定。九州南側から熊本への大動脈が回復見込み
 ※益城(ましき)バスストップ付近 土留め鋼材を打設中・その後崩落した盛土を復旧
 ※木山川(きやまがわ)渡河部 橋桁ずれ 橋梁を支えるベント設備を設置中

大分自動車道 湯布院(ゆふいん)IC～日出(ひじ)JCT(17km)

※由布岳(ゆふだけ)PA付近 土砂撤去中(4車線中2車線ほぼ完了)・土留めを開始

【国道】

阿蘇大橋地区斜面崩壊(国道57号・国道325号)

※専門家の意見を聴きながら、土砂撤去用進入路の確保等のため、現地作業中

■鉄道関係

○新たな開通について

- ・新幹線 九州新幹線 博多駅～熊本駅が、23日正午頃、運転再開予定
- ・JR九州 三角(みすみ)線 23日中に全線運転再開見込み

○運転休止

- ・新幹線 九州新幹線 運休区間：博多駅～新水俣駅

※熊本駅～熊本車両基地間(本線上)回送列車1本 全車脱線 車両の撤去作業を実施中
 本日13時から切り離された車両の車両基地への移送作業を開始

※新玉名～熊本間の応急復旧工事を終了。23日朝から、博多から熊本間の試験走行が行われ、順調に終了すれば、正午頃から運転再開の予定。

- ・在来線 3事業者4路線(運転休止) ※再開見込み含む

- ・JR九州 2路線
- ・熊本電気鉄道 一部(1路線)
- ・南阿蘇鉄道 全線(1路線)

■空港関係

- ・熊本空港：ターミナルビルは5つの搭乗口のうち3つのみ運用中。旅客便は19日に運航再開し、20日以降は通常の約7割(50便程度)が運航中。また、24時間運用し救援業務に対応中で、自衛隊、米軍機等が利用。
- ・九州の他の空港：通常どおり運用中(大分空港において早朝の運用に対応中)福岡-鹿児島間等に臨時便を運航

■バス、フェリー等

- ・熊本港～釜山(ぷさん)港の定期コンテナ航路が23日から再開予定。
- ・九州の高速バスは運休した路線のうち、約4割が運行再開(22日8時現在)。熊本市内の主要路線バスは概ね運行再開。
- ・熊本-島原フェリー航路は朝7時台の便から通常どおり運行中(1日16往復)。

(4) 土砂災害 21日からの雨による新たな土砂災害の報告なし

※発表されていた土砂災害警戒情報及び大雨警報は全て解除

- ・重点箇所(阿蘇大橋地区、火の鳥温泉地区、高野台地区、立野川、山王谷川)
 - ・阿蘇大橋地区：専門家の助言を踏まえ、斜面对策について県と調整
 - ・山王谷川他：専門家の助言をもとに、県が土砂掘削等の応急対策を実施中
 - ・専門家による捜索活動の二次災害防止支援(阿蘇大橋地区)
- ・緊急度の高い危険箇所約1100箇所に対し、TEC-FORCE(土砂災害現地調査チーム)により点検し、県及び市町村へ情報提供、助言(実施中)
- ・土砂災害による二次災害防止
 - ・ツイッター等による注意喚起、特に警戒を要する箇所を市町村長に直接助言

市町村支援等

○TEC-FORCE 434名が自治体所管施設の被災状況を調査 ※21日413名
阿蘇市、南阿蘇村等の被災箇所において上空からドローンによる調査を実施

○リエゾン 61名 ※21日56名派遣

- ・熊本県庁8、熊本現対本部7、熊本市3、益城町3、御船町2、嘉島町3、西原村3、南阿蘇村4、菊池市1、宇土市5、大津町1、大分県庁4、阿蘇市2、高森町3、菊陽町2、甲佐町2、JR九州1、陸自2、八代港5

○照明車、対策本部車、衛星通信車等 82台

○海洋環境整備船及び海上保安庁巡視船等 65隻・日※熊本、八代等5港

熊本地方を震源とする地震について

国土交通省関連

※4/22 14:00現在

